

「わたしがいのちのパンです」

ヨハネの福音書 6 章 34～35 節



ヨハネの福音書 6 章は、イエスが男子だけでも 5,000 人にもものぼる群衆の空腹を満たすために、5 つのパンと 2 匹の魚から彼らに望むだけの分量を分け与えた奇跡が始まります。今日の聖書箇所は、その翌日に交わされたイエスと群衆の一部の人たちとの会話ですが、ヨハネの福音書に 7 つ記されてあるイエスによる最初の自己宣言です。

ヨハネの福音書は「いのち」を得ることについて書かれていますが、ここには奇跡を経験したにもかかわらず、イエスを信じない人々が登場します。なぜ信じなかったのか。私たちはどうだろうか考えてみましょう。

“これらのことが書かれたのは、イエスが神の子キリストであることを、あなたがたが信じるためであり、また信じて、イエスの名によっていのちを得るためである。” ヨハネ 20:31

1. 群衆の期待と失望

“人々はイエスがなされたしるしを見て。「まことにこの方こそ、世に来られるはずの預言者だ」と言った。イエスは、人々がやって来て、自分を王にするために連れて行こうとしているのを知り、再びただ一人で山に退かれた。 ヨハネ 6:14-15

“そして、湖の反対側でイエスを見つけると、彼らはイエスに言った。「先生、いつここにおいでになったのですか。」 ヨハネ 6:25

2. 信心と信仰

(信心)



(信仰)



3. 今のからだと復活のからだ

“兄弟たち、私はこのことを言っておきます。血肉のからだは神の国を相続できません。朽ちるものは、朽ちないものを相続できません。” I コリント 15:50

“ですから、私の愛する兄弟たち。堅くたつて、動かされることなく、いつも主のわざに励みなさい。あなたがたは、自分たちの労苦が主にあつて無駄でないことを知っているのですから。” I コリント 15:58

“兄弟たち、私は、自分がすでに捕らえたなどと考えるはいけません。ただ一つのこと、すなわち、うしろのものを忘れ、前のものに向かって身を伸ばし、---その賞をいただくために、目標を目指して走っているのです。 ペリピ 3:13-14